※ ホームページ等で公表します

立教コミ福－企画Ⅰ－報告

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金
企画研究プロジェクトⅠ（教員・学生参加型）２０２５年度研究成果報告書

プロジェクト学生代表者	学科・学年	氏　名
	福祉学科・３年	小野　梓
指導教員	所属･職名	氏　名
	福祉学科・准教授	掛川直之
研究課題	刑務所の「食」を通じて受刑者の尊厳を尊重する取り組みを社会福祉の視点から学ぶ	
研究年度	２０２５年度	
プロジェクト分担者	坂下姫菜、仲川百花、土屋知有、井口歩海、森井優衣、森田凛、棚本なつき、早川寛紗	

プロジェクトの内容及び成果の概要

1.プロジェクト内容

刑務所に服役する受刑者にとって、食事は大きな楽しみのひとつになっています。高度に自由を制限された刑務所において提供される食事は、単なる栄養補給の役割を超えて、受刑者の心身の健康を支える重要な要素となっていると考えられます。刑務所のなかでは食事が生きがいや刑務所内で与えられる作業のインセンティブとなっているに違いありません。

本プロジェクトは、『めざせ！ ムショラン三ツ星：刑務所栄養士、今日も受刑者とクサくないメシ作ります』（朝日新聞出版）の著者であり、岡崎医療刑務所の管理栄養士の黒柳桂子さんのご協力のもと、刑務所の「食」を通じて受刑者の尊厳を尊重する取り組みを社会福祉の視点から学び、社会の理解を求めるアクションを起こすことを目標に立ち上げたものです。

本プロジェクトでは、まず、2025 年 7 月に、黒柳さんを本学にお招きしての学習会をおこないました。その後、同年 8 月に、黒柳さんが勤務されている岡崎医療刑務所への施設参観をおこない、黒柳さんや福祉専門官等にお話をうかがうとともに、実際に岡崎医療刑務所のメニューとして提供されている「獄旨ドーナツ」の調理方法についてレクチャーを受けることができました。

2.本プロジェクトの成果

本プロジェクトの成果としては、まず、11 月に本学新座キャンパスにおいておこなわれた学園祭において「獄旨ドーナツ」の販売および刑務所の「食」と福祉との関係についてのミニ展示をおこない、地元住民等に対しての啓発をおこなうことができました。

つぎに、12 月に東京国際フォーラムにおいておこなわれた全国矯正展（法務省矯正局主催）において、刑務所の「食」と福祉との関係についてのパネル展示等をおこなうことができました。

このような取り組みを通じて、私たちは、刑務所における「食」と出所後に求められる福祉的支援の必要性についての理解を深め、社会への問いかけをおこなうことができました。